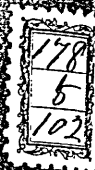


學小
國民讀本

山中英二郎編

卷三

館語書合育教本日大			
三	二	三	六
六冊	六號	三架	六函



明治二十年二月十四日内務省文部省

小學國民讀本卷三

平井 參 閱
山中英二郎 編

第一課

よき草とありき草とあり ○

人小よき人とゐしき人とあり ○

好き人ハ世の益をふく故小尊を

れ、好き草ハ好き花を開き、好き實

世に益を
ふく草と
ありき草
とあり

愛憎
拔棄

小學國民讀本 卷三

綿珠閣藏

鳩
穀
馴
群

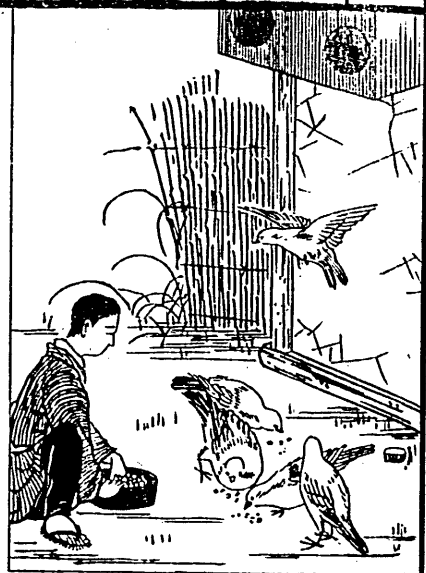
と結ぶ故小愛せ
 らる○惡き人ハ
 世の害となす故
 小憎まれ惡き草
 ハ土地をあらは故小抜き棄らる

第二課

鳩ハ愛らーき鳥小して能く人小



遊
朋
爭

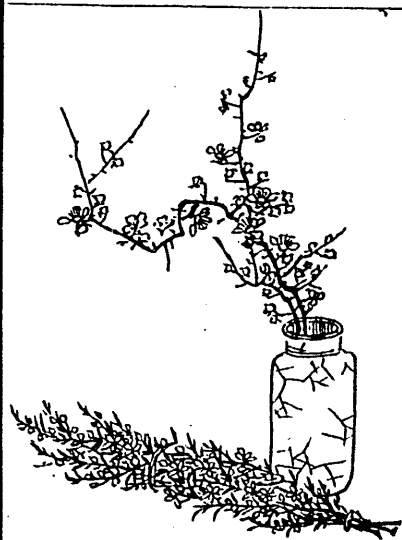


馴る○鳩ハもつ
 とも豆を好む又
 米穀の類をも食
 ふ○此鳥ハ群を
 て遊べども其友と爭ふことなし
 ○人も鳩の如く朋友と爭ふこと
 なのみ

重紅

第三課

此花は何なりや○梅と桃なり○
 桃と梅とハいづれも先小花を開
 くや○梅ハ花の中ふて
 第一小早く開く
 ものなり故小梅



暖、羅、紗、着、唐、襪

を花の兄といふ○梅小八重と一
 重とあり○桃小紅と白とあり

第四課



絹ハ麻よりあた
 らしく木綿ハ絹
 より暖るく、羅紗
 ハ木綿より暖る

なり○故ふ冬の羅紗、木綿、絹を着
夏は麻を着る○ちいみは麻なり、
ちりめんは絹なり、唐棧は木綿な
り

第五課

三足の犬あり○一足の白くいて
二足の赤と黒となり○白き犬は

足、齧
余、飼
呼、否

おどやるなれど
も赤と黒とい食
物を争ひてやゝ
もたれを噛み合
へり○白き犬は好き犬なれを余
は名をつけて飼犬よせんと思へ
り○「まる」と呼ぶべきの「ハ」と呼ぶ



べきる。○舌、白き犬なまを「白」と名
づくべし

第六課

梨、與
獸、猿



此梨ハ甚ごうま
し余ハこれを「白」
ハ與へんと思ふ
なり○舌、犬猫ハ

翼、蜈蚣、蛇、蛭、泳

菓を食せど○獸よて菓を好むハ
猿、至すの類なり○猿ハ又だいこ
人、に人ト人の類をも好めり

第七課

人ハハ二つの手と二つの足とあ
り○獸ハハ四つの足あり○鳥ハ
ハ二つの翼と二つの足とあり○

蟲は、いくつの
 足ありや○蟲は
 多くの足ある
 ものと又足なき
 ものと有り○蜈蚣、げじくの類
 は多くの足あり、蛇とみずと
 蛭の類は足なし○魚はひれは



て水を泳ぐものなり

第八課

君は角ある獸を見たりや○余が



見たるは牛と鹿
 と羊となり○そ
 の角の形は同ト
 きや又異なりや

角、鹿、羊、異、曲、
 形、圓、工

○牛の角ハ圓くして少く曲き
り、鹿の角ハえだあり、羊の角ハ平
めふしてよぢきたり○角よてさ
まぐの器を作る此を角細工と
いふ

第九課

此ハ樽柿なり○樽柿ハ赤ぶき柿

樽澀
製甘

愚賢

と酒樽よつめて
其澀をぬきたる
ものなり故小ま
く樽ぬきともい
ふ○澀き柿も製造小手をつくせ
む甘き柿となる愚なる人も勤め
て學べむ賢き人となるべし



熊急
運雪
獵里
獵師
稀

第十課

熊ハ心ぶけ好き獸なり○夏のう
ち怠りなく食物を穴よ運び入る



て長き冬の日の
食とせり○故小
山小雪ふるとき
猪鹿の類ハうゑ

煉瓦
据柱
床壁
塗焼
患難

第十一課

て人よとらるゝ事あれども熊ハ
里ちゐく食をもとめて、獵師の爲
よりたゞゝこと稀なり

日本風の家の木よてつくり、西洋
風の家の煉瓦と石とよて造る○
家を立つるよハ石を据ゑ柱をた

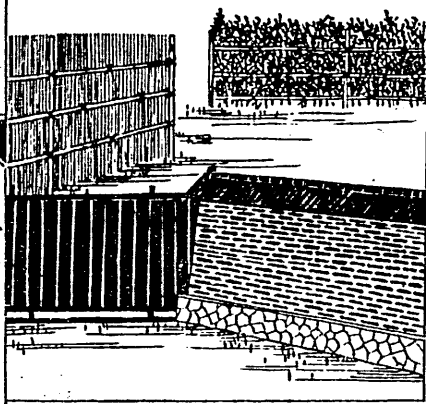
て屋根をふき瓦
を置き床をとり
壁を塗るなり○
木よて造りし家
ハ火小焼くる患おきども煉瓦と
石よて造りし家ハ火難のおそ
れ少なり



第十二課

板塀築塀
防生塀

板塀ハ板よて作り土塀ハ土と瓦
とよて築く○木を植て垣よりた
るを生垣といひ



竹を立て、結ひ
たる垣を竹垣と
いふ○塀も垣も

皆人の入るを防ぐものなれを垣
を破り塀をこえてみどり小其内
よ入るべからず

第十三課

華族 公家 武士 農民 農工商 職

華族はおもよむる一の公家と大
名となり○士族は昔の武士なり
○平民は農工商なり○農とい百

菜餚 賃金 髪 材 百 八

姓をいひ工といひ職人をいひ商と
い商人といふ

第十四課

百姓といふ米麦豆
野菜をつくり又
山林を志とつる
人といふ○職人

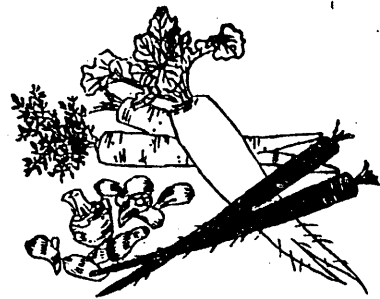


とい自ら働らきて賃錢をとる人
 をいふ大工、左官、仕立屋、板木師、髪
 ゆひの類ハみな職人なり○商人
 とハ百姓と職人との作りたる品
 を商ふ人をいふ米屋、酒屋、呉服屋、
 材木屋、紙屋、八百屋の類ハ皆商人
 なり

蘿蔔
 牛蒡
 芋
 鹽漬
 澤庵

第十五課

八百屋、小蘿蔔とよんどんと牛蒡
 と芋とあり○此等の皆畑ふつく



るものなり○蘿
 蔔ハ煮て食し又
 鹽よつけて食ふ
 ○蘿蔔の鹽よ漬

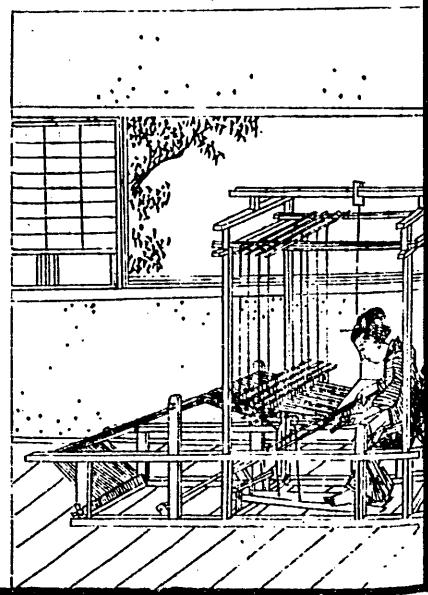
けとるを澤庵といふ○ふんどん
と牛蒡と芋とハ皆煮て食ふもの
なり

第十六課

木綿ハ木綿とてよりて糸とし
機よて織りたるものなり○機と
織る人を機織職人といふ○金巾

機織
巾械
道具
組具

ハ外國よて機械
よて織りたる木
綿なり○汝ハ機
を織る所で見
りや○機織道具ハ仕組の至てむ
づかきものなり



第十七課

各責 若干 銀行 預飲

二人の農民あり各その作りたる
野菜を賣て若干の金を得たり○
一人は此金を銀行に持ち往て預



けんとし一人は
此金よて我好む
酒を飲まんとせ
り○此二人のふ

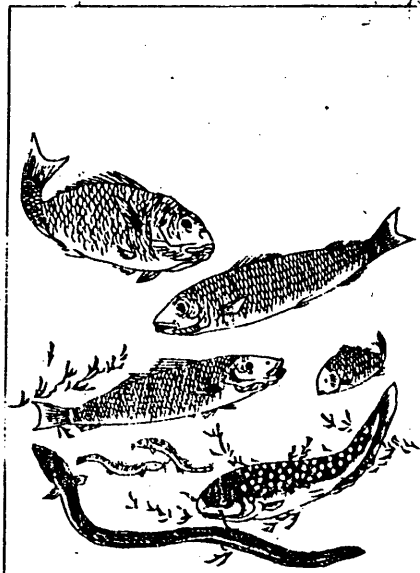
鯛活 泉潮 常命 鯉鰯 鱸鰻 住鯉

るまひに何れも賢くして何れも
愚なるや○前の人ハ賢くして後
の者ハ愚なり

第十八課

此鯛ハ活て居れりこれを泉水よ
きなまべし○否、鯛ハ海魚なれむ
潮ハ生活せれども常の水ハ

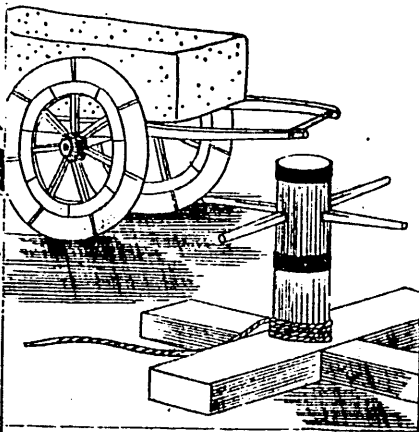
其命をたもつ事
なし○常の水は
すむ魚ハ鯉、鮒、鯰、
鰻、どじやう、金魚
の類なり○鱸、鮓ハ川にも海にも
住む魚なり



第十九課

運如何
總轆轤
動轆轤
影府
源太

此重き石を遠方へ運むんとす○
如何にして動ゐるべきや○總て
重き物を動ゐるは轆轤の力を



用ふべし○重き
物を遠くへ運ぶ
ハ車の力小あら
ざれど能ハズ○

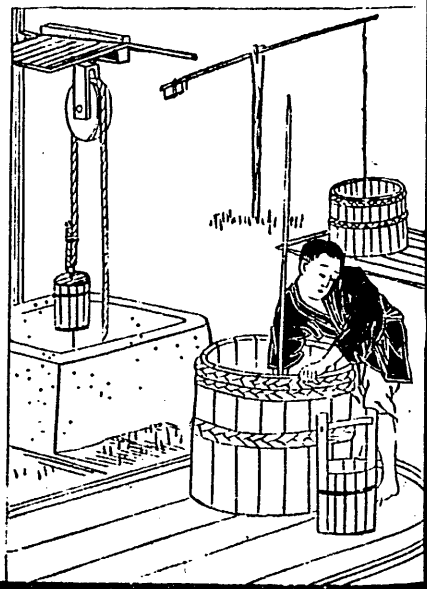
石の中よて最も重きハ御影石、根府川石、青石、源太石の類なり

第二十課

此人ハ井の水を汲めり○この釣瓶ハ竿釣瓶なり○繩釣瓶ハ繩と車との志のけよて釣瓶を上下シハね釣瓶ハ竿の柄小重しをつけ

汲瓶、竿釣、繩釣、井、田舎

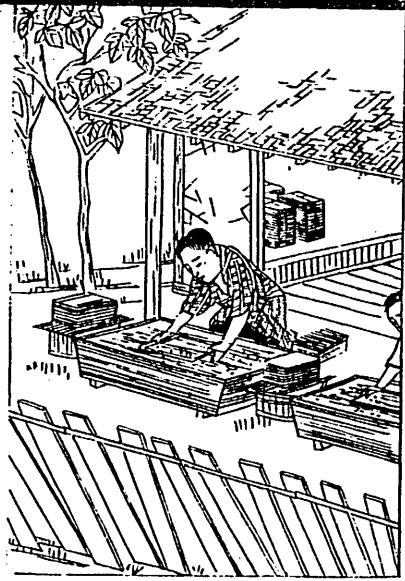
て水を汲む○繩釣瓶をかけたる井と車井といふ○そね釣瓶ハ力を勞さること少なければ田舎よて田の水をまくよ用ふる事あり



第二十一課

楮皮、洋布、挽、帳、扱、屑

我國の紙は楮のあま皮にてつくり西洋の紙は布きれ又ハ木の挽



き屑にて製せ○本で讀み字を習ひ帳面を製し手紙を書くも皆紙の用はよれり故に紙をむ太切小

厚表、茶、損、戲、飾、革

扱ふべし

第二十二課

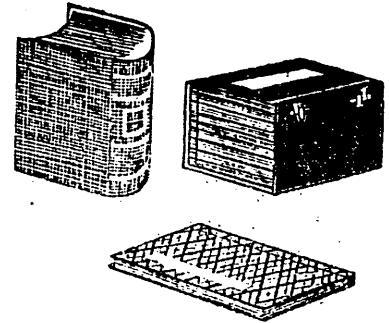
書物の上、下は附きたる厚き紙を

表紙といふ○表

紙は青きあり

赤きあり黄なる

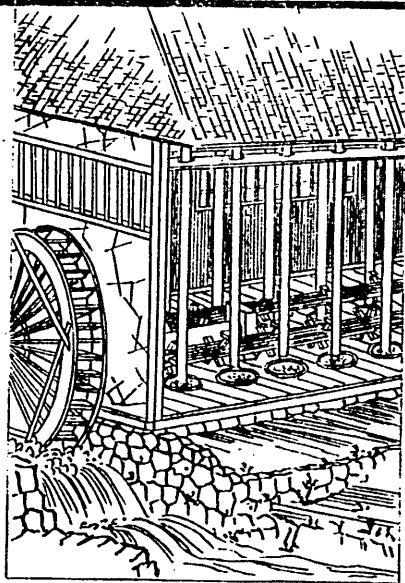
あり又茶色なる



もあり○表紙の厚き紙のほろふ
布、革の類をも用ふるなり○總て
表紙の中なる紙のきを損ぶるを
防ぎ又書物の飾をつくるものな
れどこれを破り又戯ぶれは物な
どを書くべからず

第二十三課

汝の水車を見たりや○水車ハ水



の力にて大きな
る車とまはし米
を舂き粉をひき
又布類をも織る
ものなり○其仕掛ハ巧みふて
車の轉るさま面白し○汝等水車

と見んことと望まむ水車場小連
れ往て志めをべし○されども車
の近くよの寄るべからず動もを
れを怪我をる事あり

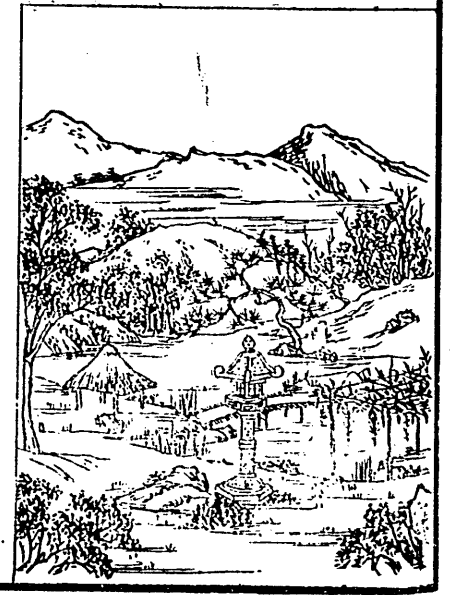
第二十四課

庭向
棚架
此方
燈籠
彼方

此の好き庭なり○向ひ小山あり
山の下は池あり池の岸は松あり

東屋
天然

又藤棚をも架け
たり○此方よの
石燈籠をすゑ彼
方よの東屋を建



てより○此庭の山と遠くは見ゆ
る高き山といふ同じものなりや○
否高山の天然の山にして此山の

人造の山なり○人の造りし山と築山といふ

第二十五課

糸は木綿糸と絹糸とあり○木綿の着物の木綿糸はてぬひ絹の衣服は絹糸はて縫ふ○絹糸は蠶の繭をひきてつくる木綿糸よりも

縫、蠶、繭、糸、木、綿、糸、と、あり、○、木、綿、の、着、物、の、木、綿、糸、は、て、ぬ、ひ、絹、の、衣、服、は、絹、糸、は、て、縫、ふ、○、絹、糸、は、蠶、の、繭、を、ひ、き、て、つ、く、る、木、綿、糸、よ、り、も



細くして強ー○針はも木綿針と絹針とあり○木綿針は大小て絹針は小なり○此外は本を綴ちまゝと疊をさき針あり何れも縫針よりハ大なり



の鶴といふ○鶴は命なぶき鳥なり
 として世の人甚ぞ珍重を

第二十八課

して空高くまふ
 其舞ふさまゆゑ
 ゐなり○頭は赤
 き冠あるを丹頂

龜、甲、遊、極、小、笠、原、捉

龜は甲あり又四つの足あり○
 常小水中に住めども時々岸よの
 ぶりて遊ぶ○海龜は極めて大
 なるものあり小
 笠原島の人此
 龜を捉へて常の
 食とす○龜も鶴



銅、鉄、質、堅、鑄、幣、及、貨、鑛

と同ドく命長きものなりとてめ
でたきものゝ一つとせり

第二十九課

金ハ黄ホして銀ハ白く銅ハ赤く
して鉄ハ黒ー○金と銀とハ金屬
中の最も美てく尊きものなり
○鉄ハ其質極めて堅けれで或ハ



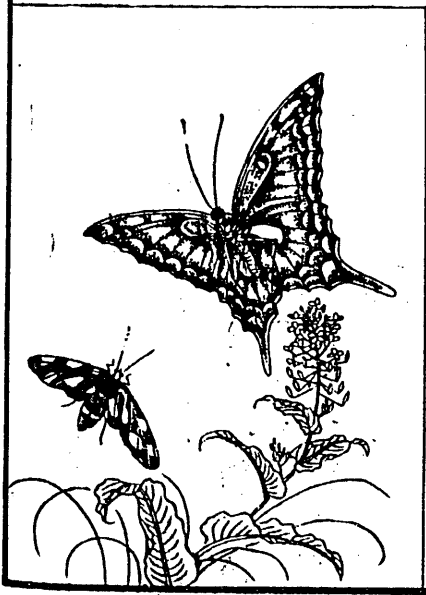
鑄或ハきとへて
又物まゝ器械
作る○何れの國
ハても貨幣と作

るよハおなく金銀銅と用ふ○金
屬の出づる山と鑛山といふ

第三十課

蝶、羽、錦、晴、飛、吹、狂、斯、化、脩、悟

蝶ハ其羽美ハ一くして或ハ黄ハ
或ハ黒く中ハ錦の如くなるも
あり○春夏の晴る日ハ庭ハ
飛び花ハ戯ぶれ
風ハ吹れて狂ふ
さまいと面白し
○斯く美をーき



鳥、鷹、競、勵、寢、貧、窮、劣、前

蝶も其もとハ毛虫まゝ芋虫の化
したるなり○故ハ惡き人も其心
を改め其行を修むれを善き人と
なることを悟るべし

第三十一課

鶏、鳶、鳥、雀ハ鳥類なれども朝ハね
ぐらと早く出でかのく競ひて



其食をともむ○
 人も朝ハ早く起
 て其業を勵むべ
 し○朝寝して其
 業は怠り貧窮は
 おちりて食物
 を得るは苦む人
 ハ前の鳥類も
 劣りしものなり

鼠、棚、厨、潛、損、捕、貪、憎

第三十二課

鼠ハ日中の穴の中ハ潛み居り夜
 は入れを出で、食を求む○其出
 る時ハ棚の下の
 厨ハ入り器を
 るみ物を損ふ○
 故小人ハ鼠をに

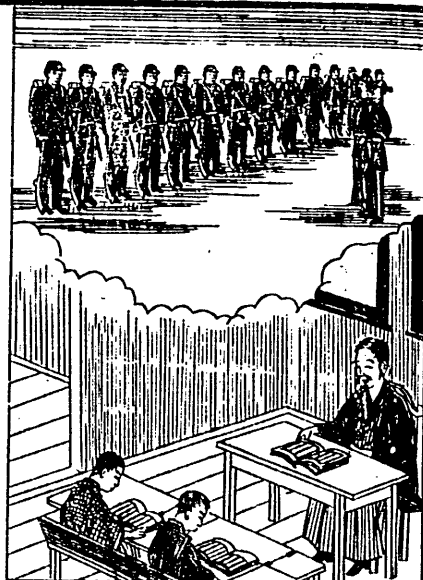


くみ猫をかひくこれを捕らゝむ
○惡き小兒ハ鼠の如く物を損ひ
器を破り或ハ食を貪る故小人の
憎みをうくるものなり

第三十三課

世の中ハ必用なる人甚ど多し○
教師ハ人ハ物を教へ學者ハ好き

醫、療、隊、敵、空、
病、兵、國、乘、



書物であらそし
醫師ハ人の病を
療ま○兵隊ハ國
をまもりて敵を

防ぎ船乗ハ船ハ乗て海をこる
○總て己ハ身の勤をなさむ空
く遊び居る者を無用の人といふ

○汝等も其身の職業を勤めて必
だ無用の人となること勿き

學國民讀本卷三終

明治十八年十月廿六日版權免許
同十九年四月十日出版
同二十年一月廿五日訂正再版御届

定價金九錢

編者

京都府平民

山中英二郎

東京日本橋區馬喰町二丁目吉番地寄留

出版人

東京府平民

石川壽々

東京日本橋區馬喰町二丁目吉番地

發兌人

石川治兵衛

同呼